

建設時評

硬直化

東北大学 災害科学国際研究所
准教授 平野勝也

「出張先で、確かに出張していることを証明するために関係者以外から2名の署名をもらう」研究費の不正使用が相次いだ某大学の旅費規定だそう（幸い当方にはそんな規定はない）。とかく、この国は批判に弱い。不祥事が起きるたびに再発防止策の名の下に、ルールが増えていく。個人の責任よりも、組織の責任（連帯責任）を重んじる社会風土が連綿と息づいている。誰かから文句を言われた時に、「組織としてこういう対応を取っています」と、堂々と言えるようにするためだけのくだらないルールが世の中に満ち溢れていると思えるのは、私が大学に身を置いているからだけではあるまい。

子供達が楽しく遊んでいたため池で事故があると、突然次の日に柵が作られ、子供達は遊べなくなるなどという現象も、喫煙マナーが悪いから喫煙所が廃止されるという現象も、根は同じだろう。ごく一部の悪人、ごく一部の不幸な出来事のために、組織の責任逃れのためだけに全体の善良な人々の生産性や楽しみを奪い去るのである。こうして、じわじわと生産性が奪われるだけでなく、生きづらい社会環境が出来上がっていくのだ。

ネット社会により、より簡単に人の批判ができるようになった。そのため近年、「炎上」などと大騒ぎして、小さな不祥事までが対象になり、責任逃れのために「一部のために全体の生産性や楽しみを下げる」対応が増え続けているように思う。国が減ぶとはこういうことかと、ふと思わないではられない。

* * *

もちろん行政も例外ではない。いや、例外どころか、一番の典型例である。行政官の不祥事があるたびに、ルールは増え、行政官の裁量権はどんどん減らされている。裁量権を持つから悪いことができる。それは確かにそうだが、裁量権を持つからこそ、良いこともできるのである。悪いことをさせないために、裁量権を減らしていくという発想は、実は、行政官は要らないと言っているのに等しいことに、誰か気づいているだろうか？裁量権がなく、機械的にことを進めるのであれば、それこそ人ではなく機械で十分だ。安くない給料を行政官に払う必要など微塵もない。我々が行政官に安くない給料を払っているのは、機械的作業ではなく、裁量権を上手に使って、行政サービスを的確に行ってもらったためではないのか？現実には、私利私欲のために特別なことを行うことと、街のために特別なことをするというのは、全く同じようにハードルが高くなってしまっているのである。それで、縮退時代の街の経営がうまくいくとは思えないのである。縮退時代は誰も経験したことがない。今ある雛形のやり方でうまく行くはずがないのだから。放っておいても、行政官というのは無責任でいられる立場である。何かうまくいかないことがあると、あの部署が悪い。県が悪い。国が悪い。制度が悪い。市民

が悪い。議会が悪い。いくらでも簡単に人のせいにして、安心できてしまう。もっと行政官に裁量権と個人責任を持って取り組んでもらわなければ、縮退時代の都市経営はうまく行くはずがない。

* * *

津波被災地では、リアス式海岸部でも、ようやく次々と高台造成が完成し住宅再建が進んでいる。ふと目をやると、小さな広場には柵がめぐらせてある。街中の広場ならいざ知らず、広場から飛び出す子供もいない高齢集落。よしんば、お孫さんが遊びに来ていて、飛び出したとしても、車はほとんど走っていないような小さな集団移転地である。柵は必要なのかと担当者に聞いてみたところ、飛び出しのほか、駐車場利用も懸念してとのこと。公物の私的利用を防ぐというのは、公平性の観点から重要なことかもしれないが、冠婚葬祭などで、多くの人が車で集まった時、ちょっと駐めさせてもらうぐらいのことがある方が、却って、路上駐車されるより良いのではないかとさえ思えるが、私的利用に関わるトラブルを未然に防ぐ装置としては、柵が必要ということなのである。

また、そうした小さな集団移転地でも、区画道路は全て6mの幅員がある。数軒の移転地であってもそうなっている。軽トラックの多い浜のこと、建築基準法が許す4mの道路で十分だと、道路交通の観点からは思うし、その2mの差で造成規模が小さくなり工期も早まるのであるが、6mである。これも公平性である。開発行為は宅地開発指導要綱に則って、実施されなければならない。そこに示されている最低道路幅員が6mなのである。もちろん、宅地開発指導要綱を作った時は、

小さな漁村集落を開発することなど全く念頭になかったのだ。まさか誰も小さな漁村集落の道が6m必要とはさすがに言わないだろう。しかし、今までそれを用いて郊外住宅地開発を指導してきた。4mの幅員はダメで6mにせよと。にもかかわらず、自ら行う開発で、それを破るのは公平性にも公正さにも欠けると。筋論としては極めて正しい。筋論として正しくても、出来上がった空間は、どう見ても正しいとは思えない風景を呈している。

* * *

誰かの言葉のパクリか翻案なのだと思うが、以前から公務員になる教え子には以下のことを伝えてきた。

三流の公務員は、なぜできないか説明することができる。

（これにしても複雑なルールを理解する必要があるが）

二流の公務員は、どうすればできるか提案することができる。

一流の公務員は、何をすべきか提案することができる。

君たちは一流を目指しなさいと。

現代の炎上型批判社会において、ますます二流以上の公務員がいることが、その街のまちづくりの成否を握っている。硬直化したルールの中で、誰も傷つけずにルールをいかくぐって、必要な手を打つ。そんな能力が、公務員に求められているのである。しかし、それも、あまりの至難の技になりつつある。被災地での苦闘の中で、いつもそれを痛感している。